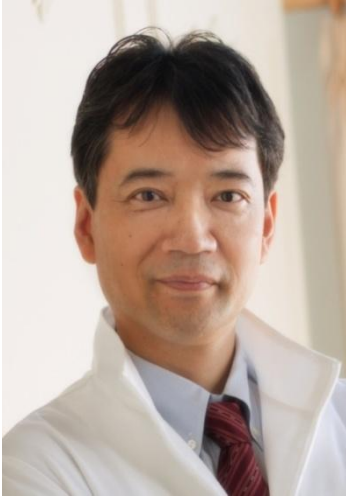


(株)アスカデンタルサプライ 主催

# 今井 一彰 先生 特別講演会

～口も大切、鼻も大切 オーラルケアとネイザルケアの実践～



講師： みらいクリニック 院長  
**今井 一彰 先生**

略歴 平成7年 山口大学医学部卒業 同大学救急医学講座入局  
福岡徳洲会病院麻酔科  
飯塚病院漢方診療科医長  
山口大学総合診療部助手などを経て  
平成18年みらいクリニックを開業

日本東洋医学会認定漢方専門医  
NPO法人日本病巣疾患研究会副理事長  
加圧トレーニングスペシャリストインストラクター

### 主な著書

免疫を高めて病気を治す口の体操「あいうべ」  
正しく鼻呼吸すれば病気にならない等

日 時： 2017年7月30日(日) 13時00分～16時00分

会 場： ホテル日航奈良 4F 飛天【奈良市三条本町8-1(JR奈良駅西口直結)】

定 員： 250名

受 講 料： 歯科医師 8,000円、歯科医師除くスタッフ 3,500円 (消費税含)

お申込み・お問い合わせ

**ADS** 株式会社 アスカデンタル サプライ  
HENRY SCHEIN®

Tel 0742-61-6480 Fax 0742-61-6481

参加申込書《お申し込み先FAX: 0742-61-6481》下記申込欄にご記入の上、FAXでお申し込みください。

Dr・DT・DH・DA

ふりがな  
お名前

Dr・DT・DH・DA

ふりがな  
お名前

Dr・DT・DH・DA

ふりがな  
お名前

ふりがな  
お勤め先

〒

ご住所

電話番号

Fax番号

キャンセルの場合は講習日の1週間前までに必ずお申し出ください。

## セミナーの内容

「鼻づまりで治療がたびたび中断される」「鼻呼吸を促しても、鼻閉で出来ないといわれる」「耳鼻科に受診しているが鼻閉がなかなか改善しない」という悩みをよく聞きます。

鼻呼吸は体にとってとても大切なことはわかっている、「鼻が詰まっている」と言われてはその対策の立てようがありません。

今回は、口呼吸を改善する「あいうべ体操」の考案者である今井一彰先生をお招きして、歯科医院でも行える鼻づまり対策、セルフケアをお話しいたします。

口呼吸問題は、どんどん一般の人たちも知ることになってきました。口呼吸になってしまえば、口腔内環境にも悪影響をおよぼします。口呼吸の弊害を知り、その対策を立てる方法を分かりやすく説明していただきたいと思っています。

3時間ですから、通常のあいうべ体操や口呼吸に関する講演よりも、さらに深く、広く、ネイザルケア(鼻のケア)までお伝えくださるとのことです。

院長先生をはじめとして、歯科医院のスタッフの方々全員に聞いていただきたい内容です。

\*\*\*\*\*

### 抄録

以前「口を閉じれば病気にならない」という一般向け書籍を上梓した。口を閉じると言うこと、つまり鼻呼吸状態が病気予防になるということだ。1892年に耳鼻科医のClinton Wagnerが著した「mouth breathing: its cause and effect」には、慢性的な口呼吸状態の結果として、上顎前歯突出、下顎後退、鼻唇溝が目立つと記してある。口呼吸を、「呼気吸気のどちらかでも口で行う状態のこと。さらに習慣性開口による口腔粘膜乾燥状態」と定義してみると、それだけのことで顎顔面の状態が変わるのかわかには信じがたい。この口呼吸という意識されることの少ない悪習慣により人体にどのような影響が出るのであろうか。

口呼吸では歯面の乾燥、歯・口腔の冷えが起こり、歯垢、歯石沈着が促進されたり、う歯、歯肉炎を引き起こす。それは病巣となり、遠隔臓器に二次性の器質的、機能的な疾患を引き起こすことがある。いわゆる病巣感染症(病巣疾患)である。ところが遠隔臓器の病変に気を取られてしまい、原病巣の治療が出来なければ同様の疾病を繰り返すことになってしまう。

オーラルケア(OC)の目的は、引き続き起こってくる全身の問題を未然に防ぐことでもある。治療よりも予防の方が簡単で費用も抑えられるので、OCは全身の疾病予防につながる。そしてOCの第一歩は、舌位置を正しきちんと口唇閉鎖を行えることである。歯科医療に、OCから全身病を予防するという予防医療の大きな役割を期待している。

OCと同時に忘れてならないのがネイザルケア(鼻腔ケア)である。鼻と口は体外との重要な接点でもあり、さまざまな防御機構が備わっている。歯科医院でも出来るネイザルケアについても詳述する。